教科・科目名（単位数）	農業　・　課題研究　（２単位）	ＨＲ コース	31HR 生産技術・流通コース
学年　３年	使用教科書・副教材等	なし	

目標
　農業に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。

評価の観点とその趣旨

①　関心・意欲・態度	農業に関する課題について興味・関心を持ち、課題の探求に意欲的に取り組むとともに、その課題を科学的に捉えて合理的に解決しようとする実践的な態度を身に付けている。
②　思考・判断・表現	農業に関する課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に、課題を適切に判断するとともに、科学的に捉えて合理的に解決し表現する創造的な能力を身に付けている。
③　技能	課題解決に向けて合理的に計画し、調査・研究・実験を通して、各科目で学習した知識と技術を再認識し、その技術を適切に活用している。
④　知識・理解	課題の解決に向けた学習を通して、専門的な知識を深化させている。

評価方法	課題研究ノート、ファイル：記述の内容、点検、確認、分析 調査・研究・実験に取り組む姿勢：行動の観察、確認、分析 基礎的・基本的な知識の理解：研究報告書の作成、提出、点検

学習計画

学期	単元名	主な学習活動（指導内容）
1	研究課題の設定・計画 研究の実施	各指導担当者より提示された研究テーマに従い、計画を立て研究に取り組む。毎時間実施することを各自が考え、わからないことなど担当からアドバイスを受ける。栽培管理・観察・記録の実施。
2	研究の実施 結果の整理と下書き作成	研究に取り組みデータを取り、データの集計を行い、結果を整理していく。文化祭で研究についての取り組みの中間報告を行う。各自が下書きを作成する。
3	清書作成提出 発表会準備・発表	下書きを手直ししてパソコンで清書をする。発表要旨の作成、発表会用スライドの作成、原稿を作り発表を行う。

教科・科目名（単位数）	農業　・植物バイオテクノロジー（２単位）	ＨＲ コース	31HR 生産技術コース
学年	３年	使用教科書・副教材等	植物バイオテクノロジー（農文協）

目標
　植物の特性を理解し、植物に関するバイオテクノロジーの基本的な知識と技術を習得し、農業の各分野で活用する能力と態度を身に付ける。

評価の観点とその趣旨

①　関心・意欲・態度	実験・実習における取り組み（意欲・熱意・研究心・責任・能力・安全） 教材、器具類の取扱と整理ができる。 継続的に記録を行い、正確に整理してまとめることができる。
②　思考・判断・表現	実験・実習において課題解決を目指した思考ができる。 基礎的・基本的な知識と技術の活用、発想の展開ができる。 記録の整理、的確な表現ができる。
③　技能	基礎的・基本的な技術操作が身についている。 計画・目的に応じた技術の実践ができる。 計画の手順、計画の展開、結果の処理ができる。
④　知識・理解	植物バイオテクノロジーの実践活動のまとめのレポート、正確な記録ができる。

評価方法	授業ノート、レポート：記述の内容、確認、分析 授業に取り組む姿勢：行動の観察、確認、分析 基礎的・基本的な知識の理解：定期試験、レポート

学習計画

学期	単元名	主な学習活動（指導内容）
1	１植物バイオテクノロジーの実際 ２植物の構造と機能 ３植物バイオテクノロジーの実践	カーネーション、イチゴの茎頂培養 植物細胞の構造とはたらき・細胞分裂・生殖と遺伝について理解する。 伊豆地域のワサビ生産が抱える課題解決を研究テーマとした活動（年間を通して活動する）
2	４植物の遺伝情報の利用	(1) 生殖と遺伝の仕組みについて理解する。 (2) DNAの構造について理解する。 (3) 細胞融合や遺伝子組換えについて理解する。 (4) DNA構造模型の制作、DNA抽出実験、実験キットを使った形質転換実験 (5) 遺伝子組換え作物の種類と特性・安全性について考える。 (6) ゲノム編集技術について
	５バイオマス・エネルギーの利用	環境問題、SDGｓ、生態系とバイオマス 栽培植物、有機廃棄物の利用について理解し、私たちの生活とエネルギーについて考える。
3	６植物バイオテクノロジーの成果と展望	植物バイオテクノロジーのまとめ

教科・科目名（単位数）		農業・食品流通（４単位）		ＨＲ コース	生産科学科 生産流通コース
学年	３年	使用教科書・副教材等	食品流通（実教出版）		

目標
農産物や農産物を原料とする食品の流通に必要な知識と技術を習得させ，食品の特性と流通機構を理解させると ともに，食品の流通と管理の合理化を図る能力と態度を育てる。

評価の観点とその趣旨

① 関心・意欲・態度	食品流通のしくみについて関心をもち、食品の特性と流通構造に必要な知識と技術を進んで習得しようとする意欲と態度を身につけている。実践的・継続的な能力がある。
② 思考・判断・表現	食品流通に関する学習をとおして自ら思考を深め、疑問や与えられた課題などを適切に判断し、系統的・体系的に考えを導きだすことができる。
③ 技能	我が国の主な食品の商品特性及び流通の手段、経路と機能に関する基礎的な知識について、学習で学んだことや身近な疑問、自ら発見したことをわかりやすく伝えることができる。
④ 知識・理解	食品の品質の維持と効率化を図る輸送と保管の技術及びそれを支える物流システムについて基本的な内容を習得し、実際の食料生産に活用することができる

評価方法	・中間考査、期末考査、学年末考査 ・ノート、レポートの内容 ・学習の状況

学習計画

学期	単元名	主な学習活動（指導内容）
1	７マーケティング	消費者ニーズを把握するための市場調査や商品知識、製品計画と仕入れ計画、商品管理と販売管理などの校内販売所を活用して学びます。販売活動や校外調査もありますのでより具体的に学べます。
		売価・原価・利益など会計処理なども学びます。更に、商品の差別化を図る。販売促進技術などを活用した本校の農場生産物（有機ＪＡＳ）の売り上げ向上なども考えます。
2	１現代生活と食品流通	フードシステムの中の小売商の機能を学びます。地域の卸売業者や小売業者の分類ができる。
	２経済活動と食料 ３食品流通のしくみと働き	小売業を含む食品の流通機構を学びその課題や問題点を考えます。
3	６食品の物流	静岡の農産物の物流のしくみを学び、食品の輸送 、保管、物流情報システムの現状と今後の方向を学び、関連する進路先でこれらに対する意見や提言ができる力を身に付けられる。

教科・科目名（単位数）	農業・総合実習　（２単位）	ＨＲ コース	３１ＨＲ 生産技術コース
学年　３年	使用教科書・副教材等	野菜（実教出版）	
目標　総合実習では、メロン、トマト、イチゴの施設栽培について知識や技術を学びます。 施設の環境制御管理や栽培管理技術を学び、品質の良い作物を生産する。			

評価の観点とその趣旨

①　関心・意欲・態度	・メロン、イチゴ、トマトの栽培に興味や関心を持ち、各作業などに主体的に取り組む姿勢を身に付けている。
②　思考・判断・表現	・栽培管理についてわからないところは質問をし、作業についてしっかり考え、的確な判断ができる力を身に付けている。
③　技能	・メロン、イチゴ、トマトの栽培管理の仕方について技能を身に付けている。
④　知識・理解	・メロン、イチゴ、トマトの生育特性や栽培管理方法を理解し、栽培に関しての知識を身に付けている。
評価方法	・座学、実習レポート、ノート：記述の内容、確認、分析 ・基礎的・基本的知識の理解：定期試験、レポート、ノート等 ・授業に取り組む姿勢：行動の観察、関心や意欲、取組状況（各作業が的確に行われているか、技能なども判断材料）

学習計画

学期	単元名	主な学習活動（指導内容）
1	温室メロンの栽培	播種から収穫までの栽培管理を行い、知識と技術を身に付ける。環境制御の仕方についても学ぶ。
	土作りや土壌消毒	土壌消毒方法や土作りの方法について学習する。
2	温室メロン、トマト、イチゴの栽培	メロン、トマト、イチゴの栽培管理を行い、知識と技術を管理する。
	温室メロン、トマト、イチゴの栽培	メロンについて２回目の栽培のまとめとしてレポートを作成する。 イチゴ、トマトなどの各栽培管理を行う。
3	トマト、イチゴの栽培	トマト、イチゴの収穫、出荷調整を行う。時期に応じて栽培管理について学ぶ。

教科・科目名（単位数）		農　業・総合実習　（２単位）		ＨＲ コース	３１HR　生産科学科 生産流通コース
学年	３　年	使用教科書・副教材等	野　　菜　　（実教出版）		

目　標
・座学に合わせて、有機野菜の栽培を自ら計画し実践することで総合的に知識と技術を習得する。
・経営と管理についての理解を深めるとともに、企画力や管理能力などを身に付け、生産・経営の改善を図る実践的な能力と態度を育てる。

評価の観点とその趣旨

①　関心・意欲・態度	有機野菜の生産から収穫・調整・販売に関する学習について興味・関心をもつとともに経営改善を図る実践的な態度を身に付けている。
②　思考・判断・表現	野菜生産や経営管理に応用できる創造的な能力を身に付けている。
③　技能	野菜栽培や経営管理の各場面に応用できる技術を身に付け、その技術を適切に活用している。
④　知識・理解	野菜栽培や経営管理の各場面に応用できる知識を身に付け、その知識を適切に活用している。

評価方法	野菜の特性を生かした栽培や食の安全を意識し行動ができるかを評価する。その成果である販売額を高く評価に加味する。そのためには、販売計画と記帳が大切である。 ・定期試験（１・２学期中間・期末、学年末試験） ・毎回のレポート、提出物および有機JAS関係書類の記入状況 ・実習への取組と販売管理

学習計画

学期	単元名	主な学習活動（指導内容）
1	野菜の生産と安全性 野菜の生育特性と栽培環境 夏野菜の育苗	・夏野菜に関する知識と栽培方法について習得するとともに消費者に配慮した栽培技術と販売活動を実践する。 ・有機ＪＡＳの生産管理を理解し記帳を習慣にする。
		・野菜の安全性と野菜自体の力を生かせる方法を実際の栽培に役立てる。
2	秋冬野菜の生育特性と栽培環境 秋冬野菜の育苗	・秋冬野菜の特性と栽培を学び、各自が販売まで考えて計画的な生産活動を実施する。 ・有機ＪＡＳの生産管理と記録を熟知する。
		・有機肥料の設計を理解し作成ができる。
3	野菜の流通と経営改善	・各野菜の栽培と販売活動をまとめ評価することで経営改善に役立てる。 ・圃場の基盤整備

教科・科目名（単位数）	農業　・草花（２単位）	ＨＲ コース	31HR 生産技術コース

学年	３年	使用教科書・副教材等	草　花（実教出版）

目標

草花の生産と経営に必要な知識と技術を習得させ、草花の特性や生産に適した環境を理解させるとともに、品質と生産性の向上及び経営の改善を図る能力と態度を育てる。

評価の観点とその趣旨

①　関心・意欲・態度	草花の生産と経営、流通について興味・関心をもち、草花生産、経営、流通について改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。
②　思考・判断・表現	草花の生産と経営、流通に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、農業に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。
③　技能	草花の生産と経営、流通に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、草花生産について合理的に計画し、その技術を適切に活用している。
④　知識・理解	草花の生産と経営、流通に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、草花の生育や栽培環境、について理解している。

評価方法	座学、実習レポート：記述の内容、確認、分析 授業に取り組む姿勢：行動の観察、確認、分析 基礎的・基本的な知識の理解：定期試験、レポート

学習計画

学期	単元名	主な学習活動（指導内容）
1	1　草花生産と消費の動向	1　草花園芸の特徴 2　草花生産と消費の動向
	2　生活と草花の利用	1　生活と草花の利用 草花の分類 品種と品種改良（育種）
2	3　草花の特性と栽培技術	1　草花の生育と環境要因 2　草花の生育と栽培技術
	4　繁殖と育種	1　草花の繁殖 種子繁殖と栄養繁殖（実習）
	5　花壇用草花の生産	1　花壇用草花生産の特色 2　花壇用草花の栽培 3　学校花壇の管理（年間）
3	6　草花の流通	1　生活と草花消費の関係 2　生花市場の仕組み 3　草花消費を上げる方法を考える

教科・科目名（単位数）	農業・野菜（３単位）	ＨＲ コース	３１ＨＲ 生産技術コース
学年　３年	使用教科書・副教材等	野菜（実教出版）	

目標　農業は、世界的に環境問題への関心が高まっている。地球環境の育成と保全につなげる農業を気付くことは大切である。農業全般を取り巻く環境を踏まえた農業を学ぶ。温室メロンやトマト・イチゴの施設栽培を通して品質の良い安全な野菜の栽培について学んでいきます。

評価の観点とその趣旨

①　関心・意欲・態度	・農業を取り巻く環境を意識し、安全で安心なより良い生産物の生産に取り組む。また、メロンやトマト・イチゴの栽培管理などに興味・関心を持ち、知識や技術の習得に取り組む姿勢を身に付ける。
②　思考・判断・表現	・各野菜の栽培特性などを理解し、栽培管理について疑問点は質問し、作業について考えながら、的確な判断ができるようになる。
③　技能	・メロン、イチゴ、トマトの栽培管理の仕方について技能を身に付けている。
④　知識・理解	・メロン、イチゴ、トマトの基礎知識を理解し、栽培作業にその知識を生かしていく力を身に付ける。

評価方法	・基礎的・基本的な知識の理解：定期試験、レポート、ノート ・座学、ノート、実習レポート：記述の内容、確認、分析 ・授業に取り組む姿勢：行動の観察内容、授業への関心・意欲、確認、分析

学習計画

学期	単元名	主な学習活動（指導内容）
1	温室メロンについて	・温室メロンの基礎知識を学習する。 ・温室メロンの栽培を通して、経営的・栽培的特性を理解し栽培する技術を習得する。
	施設の栽培環境	・施設栽培における土壌管理法や施設内の栽培環境の制御方法について学習する。
2	温室トマトについて	・温室トマト栽培について基礎知識を学習する。 ・温室トマトの栽培を通して経営的・栽培的特性を理解し、栽培管理を習得する。
	イチゴについて	・イチゴの栽培管理についての基礎知識を学習する。 ・イチゴについて栽培を通して経営的・栽培的特性を理解し、栽培技術を習得する。
3	野菜の流通と経営改善	・野菜の流通と鮮度保持、野菜生産の改善について学習する。 ・農業法人の六次産業化について学習する。（静岡県の状況）

教科・科目名（単位数）	農業・野菜　（３単位）	ＨＲ コース	３１HR 生産科学科 生産流通コース
学年　３　年	使用教科書・副教材等	野　菜　（実教出版）	

目　標
・２年次の座学・実習を活かし、露地野菜の有機栽培を目標に作目選定から栽培計画を自ら組み立て栽培するとともに、消費者の立場より野菜作りを考えて栽培や経営改善を図れる能力と態度を育てる。

評価の観点とその趣旨

①　関心・意欲・態度	野菜の生産と経営について興味・関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。
②　思考・判断・表現	野菜の生産と経営に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に課題を適切に判断するとともに、科学的に捉えて合理的に解決し表現する創造的な能力を身に付けている。
③　技能	野菜の生産と経営に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、野菜生産に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。
④　知識・理解	野菜の生産と経営に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、野菜生産の社会的役割を理解している。

評価方法	野菜の特性を学びそれを生かした栽培を実践でき、食の安全と販売を意識し行動ができるか評価する。 ・定期試験（１・２学期中間・期末、学年末試験） ・毎回のレポート、提出物の内容と有機JAS関係書類の記入状況 ・授業実習への取組状況

学習計画

学期	単元名	主な学習活動（指導内容）
1	野菜の生育特性と栽培環境 夏野菜の育苗	・夏野菜に関する知識と栽培について習得する。 ・有機ＪＡＳ認証について学び理解する。 ・連作障害や病害虫対策について学ぶとともにその対応が適切におこなえる。
		・野菜の生育特性と栽培環境を理解し、安全性と野菜自体の力を生かせる方法を学び栽培に役立てる。
2	野菜生産の役割と動向 秋冬野菜の育苗	・秋冬野菜の特色と栽培特性を学び、計画的に生産から販売までをおこなうことで経営的な栽培技術を習得する
		・有機栽培の実践と有機JAS認証に基づいた書類の記録がしっかりとおこなえる。
3	野菜の流通と経営改善	・野菜栽培の経営改善・生産と消費について年間の授業をまとめる。